

学びのR

No. 48 (令和3年12月)
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform（改革）」の頭文字です

※※ 「指導と評価の一体化」で授業改善⑱ ※※ ～ 「特別活動【学級活動(1)】」(中学校)編～

※「指導と評価の一体化」の視点から、「評価の手順」、「評価体制の確立」、「評価規準」、「指導計画」について整理します。



埼玉県マスコット「コバトン」

特別活動の学習評価の基本的な考え

【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校特別活動(以下※1) p.39 引用】

- 特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、各学校が評価の観点を定めます。
- 学級担任以外の教師が指導することも多いため、評価体制を確立し共通理解を図って生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価します。
- 評価を通じて、教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるような工夫改善を図ります。

評価の手順

【※1 p.39 引用】

① 指導と評価の計画の作成

・特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を作成する。

② 評価のための基礎資料の収集

・計画に基づいて、評価のための基礎資料を収集する。

③ 評価の実施

・収集した資料を各学校で定めた所定の手続きにしたがって総合的に判断し、評価を行う。

④ 評価体制の改善

・**評価結果**を各学校における**指導や評価体制の改善に生かす**。

評価体制の確立

【※1 p.39 引用】

○特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を基に多くの教師による評価を反映させるなど、学校としての評価体制を確立することが大切です。

学級活動において

主として学級担任が事前の見通しから事後の振り返りまでの生徒の様子から、積極的によさや可能性を見取るようにする。

生徒会活動、学校行事において

※評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに、それらが学級担任の手元に収集され、活用されるようにする。

学級担任

学級担任以外の教師

※個々の生徒の活動状況について担当する教師との間で情報交換を密にする。

※必要に応じて評価した結果を全教師で共有し、**指導に生かす**ことができるようにする。

学級活動(1) 内容のまとめりごとの評価規準(例)

【※1 p.44 引用】

○学級活動においても、生徒の発達段階などを考慮し、評価規準を作成することが重要です。

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。合意形成のための手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校生活をよりよくするための課題を見いだしている。課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

1時間ごとに評価規準を作成するのではなく、学校で定めた内容のまとめりごとの評価規準を活用します。

学級活動(1) 指導計画(本時の展開例)

【埼玉県中学校教育課程指導・評価資料 p.316~317 参照】

活動の計画	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめの言葉 2 学級活動委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話し合いのめあての確認 7 話し合い 話し合うこと① 「合唱コンクールに向けた学級の目標を決めよう」 話し合うこと② 「目標を達成するための取組を決めよう」 	<p>提案理由：・・・(中略)学級の目標と具体的な取組を考え、全員で協力して取り組むことができれば、合唱コンクールが成功するだけでなく、クラスも成長できると思い提案しました。</p> <p>学級活動(1)で円滑な話し合いのためには、3段階で進めるとよい 出し合う→比べ合う→まとめる (合意形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間となることを踏まえ、①については「比べ合う」ことから始めるとよい。その際には、事前に短冊を黒板に貼っておくなどの準備を行った上で、追加の意見についても冒頭に確認してから進める。 ・「比べ合う」から「まとめる」段階に入る際において、意見がまとまらない時は、適宜助言し、「提案理由」や「決まっていること」に立ち返りながら合意形成が図れるようにする。 <p>以下のような場面では、その場ですぐに指導助言を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を傷付けることが予測される内容 ・実施の時間や校内の決まり、施設に関すること ・金銭に関すること ・健康や安全を損なう恐れがあること <p>・終末の助言では、①合意形成したことへの価値付けや個人や集団への称賛、②今後の課題、③学級活動委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について簡潔に述べ、特に前回の話し合いと比べての変容について称賛する。</p>	<p>◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)</p> <p>提案理由には、「現状の問題点」、「考えられる解決の方法」、「解決後のイメージ」等を入れます。</p> <p>評価の観点を明確にするために、評価規準に則して、本時の展開における「目指す生徒の姿」を具体的に示します。</p> <p>◎理由を踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを伝えている。 【思】(観察学級活動ノート)</p> <p>◎活動の目標や活動内容について合意形成を図るため、建設的な意見を発表している。 【思】(観察、学級活動ノート)</p> <p>教師の指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いがそれたとき →「提案理由、めあてを確かめましょう」 ・発言が偏ったとき →「○○という意見についてはどう思いますか」 ・反対意見ばかりが出るとき →「よりよくするためにはどうすればいいか考えよう」 <p>【不適切な例】 →「よい考えですね」等、生徒の話し合いの内容を方向付ける助言は、主体性を妨げることに繋がらため行わないようにします。</p>
<p>～多数決を行う場合～ 意見が十分出し尽くされた状態で、多数決を行うことを全員が承認した場合に限り行います。多数決で決めたことには、必ず協力して取り組むことを始めに確認しておきます。</p> <p>よりよい合意形成に至るための三つのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見を理解し合う (共感的に理解) ・何が違うのかを明確にする (理由を明確にして比較) ・見方を変える (視点を変えて比較) 		
<ol style="list-style-type: none"> 8 決まったことの確認 9 振り返り 10 教師の話 		<p>学級活動(2)(3)は、4段階で進めるとよい。 つかむ→さぐる→見つける →決める (意思決定)</p>

引用・参考

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校特別活動
国立教育政策研究所
埼玉県中学校教育課程指導・評価資料 埼玉県教育委員会



「学びのR」
はこちらからも御覧いただけます!

